



100年前にさかのぼる
青少年赤十字の始まり

青少年赤十字は、第一次世界大戦のとき、カナダやオーストラリア等の学校の生徒と先生たちが、戦争で苦しんでいるヨーロッパの人々を励ますために、手紙や包帯、慰問品などを赤十字を通じて送ったことをきっかけに誕生しました。

日本では、1922年に日本初の少年赤十字(青少年赤十字の前身)が滋賀県の守山小学校で発足し、愛知県でも1924年2月に25校で少年赤十字団が創設され、活動が始まりました。

青少年赤十字創設100周年!

～写真で見る青少年赤十字～

令和4年、青少年赤十字は創設から100周年を迎えます。愛知県の青少年赤十字加盟校は全国で最も多く1090を超える学校で活動が行われています。今回は青少年赤十字の活動の歴史を写真で紹介します。



青少年赤十字3つの柱

青少年赤十字は「健康・安全」、「奉仕」、「国際理解・親善」の3つの分野において、「気づき、考え、実行する」をキーワードに様々な活動を行っています。

1 いのちと健康を大切に 健康・安全

いのちと健康を守るため、様々な活動が行われてきました。身近にあるものを使った応急手当等を学ぶ救急法講習を始め、東日本大震災以降は防災教育にも力を入れています。



青少年赤十字メンバーによる町内の消毒が行われていたこともありました。



青少年赤十字メンバーを対象とする講習はそれぞれの時代で最新の内容を取り入れながら続けられています。



楽しみながら防災を学ぶ教材「きけんはっけん」



過去の災害の教訓から学び、子どもたちの言葉で後世に伝える「子ども新聞プロジェクト」

2 社会や人のことを思い行動する 奉仕

青少年赤十字加盟校では、あいさつ運動や清掃活動といった学校や地域でのボランティア活動が活発に行われています。

また、国内外の災害・紛争などで苦しむ人たちのための街頭募金活動や、高校生メンバーによる献血呼びかけなど校外活動も行われてきました。



昭和25年、海外や国内の施設へ本を贈る活動のため、集めた本を整理している子どもたち



名古屋米付近でベトナム難民救済の街頭募金



海外救援のため1円玉募金を集める青少年赤十字メンバー



昭和46年からは高校生メンバーによる献血の呼びかけ活動も始まり、現在も続いています。



3 世界を知り、仲よく助けあう心を養う 国際理解・親善

赤十字のネットワークを活かして、世界各国の青少年赤十字との交流が行われてきました。

愛知県支部では、これまで大韓赤十字社、マレーシア赤新月社、アメリカ合衆国赤十字社、モンゴル赤十字社など各国の赤十字・赤新月社と協力し、お互いの国を訪問したり、手紙やプレゼントを送り合うなどの国際交流を行っています。



昭和29年の青少年赤十字大会はアジア地域の留学生を招待して行われました。(写真は名古屋駅での出迎えの様子)



各国の赤十字・赤新月社へ青少年赤十字のメンバーが訪問し、現地の青少年赤十字メンバーと交流してきました。(上/アメリカ合衆国赤十字社訪問 左/モンゴル赤十字社訪問)



コロナ禍でも できることを

新型コロナウイルス感染症の影響で、海外へ行くことはもちろん学校同士の交流が難しい時期もありますが、青少年赤十字メンバーや指導者の教職員の方々が知恵を出し合い、活動を盛り上げています。



感染症の差別や偏見を解消するための赤十字の教材を使った授業



オンラインで他の学校の青少年赤十字メンバーと交流



互いの国に行くことができない中、オンラインで実現したモンゴルの青少年赤十字メンバーとの国際交流



これからも次の100年へ向け、その時々で何ができるか気づき、どうすればよいかを考え、実行していきます。

赤十字事業は皆さまからの活動資金のご協力によって支えられています。

救いを託されている。

発行元/日本赤十字社愛知県支部 名古屋市東区白壁 1-50 TEL 052-971-1591 発行日/令和4年5月1日

公式ウェブサイトは 日赤 あいち で検索

